



中国日本商会

今どきコラムー130

中国雑談

新たなスーパープロジェクト「東数西算」

中国はまた一つ、時代を画するスーパープロジェクトを進めようとしている。国家発展改革委員会は多くの部門と共同で、全国に8つの国家コンピューティングハブと10のデータセンタークラスターを建設する、略称「東数西算」を進める。

ポスト工業化の時代には、水と食糧が最も重要な資源であった。「南水北調（南部の水を北部に送る）」、「北糧南運（北部の食糧を南部に送る）」というそれぞれの問題を逆手に取った二大プロジェクトが進められ、南の水を用いて北で食糧をつくり、14億の中国人を養ってきた。

大工業化時代には、石油・天然ガス・電力が最も重要な資源となり、中国はさらに「西電東送（西部の電気を東部に送る）」、「西気東輸（西部の天然ガスを東部に送る）」を提唱し、西部のエネルギーを動力として、50兆元余り規模の東部経済を支えた。

現在はデジタル経済時代に入ったことで、中国はまた一つ、国家戦略としてのプロジェクト「東数西算」を進めようとしている。これは何億人もの中国人の運命を変える可能性が高い。

2013年7月22日、誰もがウィーチャット（微信）にログインできなくなったことを覚えている人もいるかもしれない。後にテンセント社はこれについて、「上海の施工チームがテンセントの通信光ケーブルを（道路工事の際に誤って）切断断してしまい、華東データ処理センターの業務が次々と華南と華北へ移転されたため、華南と華北がその負荷に耐えきれ



ず、パンクした」という調査結果を発表した。

インターネット時代には、サーバーとデータセンターはインターネット企業の核心的なハードウェア資産で、経済と社会の正常運行を支えるインフラでもある。国内のデータ量が爆発的に増加するにつれ、中国では新しいデータセンターを急いで建設して、それを支える必要が生じてきた。

どこに造るのか？ 理論的には市場の歩みに従って、経済が発展し、人口が密集し、需要が旺盛な東部地区に造るべきだが、東部は土地が不足し、電力も不足しがちで、人的コストも高すぎる。

コストを下げ、効率を上げるために、国は「東数西算」を打ち出し、東部地区のデータを西部地区で処理しようとしている。西部はさまざまなコストが東部に比べ安いからだ。

専門家の説明によると、「東数西算」の「数」は一般的に「データ」を指し、「算」は計算力、つまりデータの処理能力を指している。

東部データセンターは、インダストリアル・インターネット、金融・証券、災害早期警戒、遠隔医療、テレビ電話、人工知能（AI）予測などのネットワークに対する要求が比較的高い業務を重点的に処理する。西部データセンターは、バックグラウンド加工、オフライン分析、保存・バックアップなどネットワークへの要求レベルが高くない業務を重点的に処理する。あるいは東部ではリアルタイムの性格をもつコンピューティングセンターを重点的に発展させ、西部では非リアルタイムなコンピューティング保障基地を優先的に造り上げるとも言える。

この新プロジェクトはいったいどれほど大がかりなものなのか？ 具体的な金額は確定しづらいが、「南水北調」「西気東輸」「西電東送」プロジェクトを参照して推算してみよう。統計によると、「西気東輸」「南水北調」「西電東送」の投資総額はそれぞれ 2620 億元、5000 億元、5200 億元であった。これは直接投資であって、それによってもたらされる経済効果



は計り知れない。

ある証券会社は、「東数西算」プロジェクトには毎年 4000 億元にのぼる規模の投資が行われ、関連産業に対する牽引作用は 1：8 に及ぶと推算している。

日本企業研究院 HP の関連記事

[在上海日本企業に見られる生産再開の難しさ、中国メディアはどう報道しているか? - 日](#)

[本企業（中国）研究院（jpins.com.cn）](#)

[中国市場でトップシェアを占める日本のロボットメーカー、今後最大の挑戦となるのは中](#)

[国国内メーカーによる猛追 - 日本企業（中国）研究院（jpins.com.cn）](#)